



2007年17号(通巻1155号)  
発行: 筑波大学  
編集: 総務・企画部  
発行日: 平成19年10月3日

### 本号の内容

- ・特別シンポジウム「科学技術基本計画と筑波大学の取組」開催
- ・科学研究費補助金の制度改正等に関する説明会開催
- ・基礎医学系公開講演会開催
- ・NHK番組「おかあさんといっしょ」の坂田おさむ「うたのおにいさん」コンサート開催
- ・アジア太平洋リーダーサミットに附属高校生派遣
- ・情報科学類でICT宿舎実施
- ・第3回IBSA世界選手権大会参加

- お知らせ..... 5
- ・全学停電時における計算機・ネットワークシステム運用休止
  - ・文部科学省共済組合共済積立貯金及び団体積立終身保険募集
  - ・筑波大学技術報告第28号原稿募集
  - ・「研究助成情報」サイト活用
  - ・附属図書館臨時休館のお知らせ
  - ・献血に協力を!
  - ・あなたのライフスタイルを見直してみませんか?
  - ・筑波大学共催IAP2008が日本学術振興会の国際会議開催助成に採択
  - ・平成19年度第2回化学類・自然学類化学セミナー開催
  - ・第47回知的コミュニティ基盤研究センター研究談話会開催
  - ・第50回リスク工学研究会(RERM)開催
  - ・「沖釣り」をテーマにルアー等による釣り教室開催

各種表彰等..... 10

# 2007 17

## イノベーション・ジャパン2007 - 大学見本市に出展

9月12~14日の3日間、東京国際フォーラムにおいて、「イノベーション・ジャパン2007 - 大学見本市」が開催されました。このイベントは、科学技術振興機構、新エネルギー・産業技術総合開発機構が主催し、文部科学省、経済産業省などが共催するイベントで、国内大学の最先端技術と産業界のマッチングを図ることを主な目的としており、延べ約44,000人(昨年に比べ約5,000人増)の来場者がありました。

出展構成は、「大学ゾーン」を柱に「TLOゾーン」、「大学発ベンチャーゾーン」のほか、大学発ベンチャー企業を支援する金融機関などによる「大学発ベンチャー支援ゾーン」や「研究機関ゾーン」により構成され、技術移転、新産業創造を加速的に推進しようとするものです。

本学からは、以下の研究7及び知的財産統括本部1の計8ブースを出展しました。各ブースでは、企業等からの来場者に技術移転などを図るべく、研究成果の紹介が積極的に行われ、本学の研究技術のレベルの高さをアピールすることができました。

### < IT分野領域 >

- ・大田友一教授(システム情報工学研究科)「複合現実感を利用して人間の視覚を支援する技術」
- ・北川博之教授(同)「大規模センサーデータ処理のための複合型情報基盤システム」
- ・星野聖准教授(同)「ヒトの手の動作を模倣する器用なロボットハンド」
- ・掛谷英紀講師(同)「3次元ヘッドアップディスプレイ」
- ・寅市和男特任教授(先端学際領域研究センター)「フルーエンシ理論によるマルチメディアの統一的記述方法」

### < ナノテク・材料分野領域 >

- ・宮崎修一教授(数理物質科学研究科)「高温形状記憶合金の開発」

### < 医療・健康分野領域 >

- ・大河内信弘教授(人間総合科学研究科(臨床医学))「肝再生治療に応用可能な血小板製剤の開発」

なお、大田教授、亀田能成准教授(システム情報工学研究科)、北原格講師(同)が運営する画像情報研究室の、「複合現実感を利用して人間の視覚を支援する技術」が、Microsoft Innovation Award 大学出展者部門 部門賞(IT分野)を受賞しました。全国各大学からIT分野領域に出展された49の研究成果の中から選ばれたもので、会場で開催された授賞式において、トロフィーと賞金が授与されました。



本学研究成果ブースの様子

特別シンポジウム「科学技術基本計画と筑波大学の取組」を開催

9月12日、今後の研究推進の方向性等を探ることを目的として、特別シンポジウム「科学技術基本計画と筑波大学の取組」を、学長、副学長、大学院研究科長等をはじめ約100名の教職員の参加を得て開催しました。

シンポジウムでは、岩崎洋一学長の挨拶のあと、宇川彰学長特別補佐（研究戦略・情報化戦略）・研究戦略室長による「筑波大学による研究戦略の取組」と題した講演



講演する桑原総務研究官



意見交換の様子

及び文部科学省科学技術政策研究所桑原輝隆総務研究官による「第3期科学技術基本計画における国立大学の状況をビブリオメトリクスから捉える」と題した基調講演が行われました。

特に基調講演では、科学技術基本計画における筑波大学の研究成果等に関して、主に論文データベースによる分析等により、世界や日本における分野ごとの強み、特色等について明らかにしていただき、その後、桑原総務研究官及び同研究所伊神正貫主任研究官、阪彩香研究員と参加者により、多様な優れた研究拠点や国際競争力のある大学をどのように形成していくべきか等についての活発な意見交換や質疑応答が行われ、きわめて有意義なシンポジウムとなりました。

科学研究費補助金の制度改正等に関する説明会を開催

- 研究事業部研究事業課 -

本学は9月14日、文部科学省科学技術・学術審議会における科学研究費補助金の制度改正に係る検討・審議関係情報を的確に把握し、平成20年度同補助金申請に向けた戦略的検討を進めるうえで有用な示唆を得ること等を目的として、「科学研究費補助金の制度改正等に関する説明会」を、関係副学長、研究科長、専攻長等をはじめ約120名の教職員の参加を得て、大学会館特別会議室において開催しました。

説明会では、水林博副学長（研究）から、教員一人当たりの研究費における科学研究費補助金の果たす役割が年々高まってきていることを示すデータに基づく説明をまじえた挨拶があった後、高見沢財務企画課長から、「科学研究費補助金の制度改正に向けた動向及びその内容等について」と題した講演が行われ、(1) 制度改正の動向とポイント、(2) 公募・審査の仕組み、(3) 公的研究費の不正使用防止、等について説明がありました。また、宇川彰学長特別補佐（研究戦略、情報化戦略）・研究戦略室長から、「科学研究費補助金をめぐる本学と他の主要大学における現状等について」と題した講演が行われ、(1) 研究資金全般の状況、(2) 同補助金の種目別・分野別の獲得状況、(3) 若手教員をめぐる課題、等について説明がありました。その後、講演者と参加者により、同補助金の申請率・採択率の一層の向上のための戦略的方策の在り方、等についての意見交換や質疑応答が行われ、きわめて有意義な説明会となりました。



講演を行う高見沢財務企画課長



熱心に説明を受ける研究者及び関係者

## 基礎医学系公開講演会を開催

基礎医学系及び生命科学動物資源センターでは、平成14年度より任期制（任期5年）を導入していますが、9月19,21日の両日、本年度基礎医学系で再任評価を受ける10名の教授及び生命科学動物資源センターで再任評価を受ける2名の教授による公開講演会を開催しました。

19日には、波多野澄雄副学長（組織・人事）の挨拶の後、「がんの発生と進展におけるTGF-シグナルの作用」（加藤光保教授（人間総合科学研究科））、「私の活動あれこれ」（久野節二教授（同））、「腎臓病理学の展開」（長田道夫教授（同））、「神経発生の研究と解剖学教育」（志賀隆教授（同））、「肺癌研究と病理医育成」（野口雅之教授（同））、「モデル動物と生命科学動物資源センター」（八神健一教授（同））の講演がそれぞれ30分間行われました。

また、21日は清水一彦人間総合科学研究科長の挨拶の後、「統合失調症のゲノム解析」（有波忠雄教授（同））、「哺乳動物の精子形成・成熟のメカニズム」（岡村直道教授（同））、「自然免疫作動の分子機構」（渋谷彰教授（同））、「Activation and regulation



挨拶をする清水人間  
総合科学研究科長

of replicons: genomes, and science and education」（永田恭介教授（同））、「運動学習と誤差信号」（吉田薫教授（同））、「発生工学を用いた大Maf群転写因子の機能解析」（高橋智教授（同））の講演が同様に行われました。

会場となった医学群臨床講義室Aには、両日とも多数の来場者があり、同会は盛況のうちに閉会しました。

NHK番組「おかあさんといっしょ」の坂田おさむ「うたのおにいさん」コンサートを開催  
- 附属病院 -

9月20日、NHK子ども向け番組「おかあさんといっしょ」の7代目「うたのおにいさん」として親しまれ、コンサート、舞台、テレビ等で活躍中の坂田おさむさんのコンサートが、附属病院小児病棟（E棟600病棟）のプレイルームにおいて開催されました。

これは、財団法人がんと子供を守る会（通称「のぞみ財団」）が、厳しい治療と闘っている入院中の子どもたちに笑いや楽しみを通して安心感、エネルギー等を与えるため、子どもたちが喜びそうな人気キャラクター、人形劇、オペレッタ等を伴って小児病棟を訪問する「クラウドクター事業」の一環として実施されたものです。

今回は、歌のコンサートが、同院の小児病棟に入院中の子どもたちを対象に行われました。

毎年、全国の7,8の大学病院等への訪問が実施されており、茨城県内は2回目の訪問で、同院としては初めてです。

コンサートでは、「どんな色がすき」、「虹のむこうに」など坂田おさむさん作詞、作曲の歌10曲ほどが、おしゃべりを交えて披露されました。

集まった子どもたちは、「うたのおにいさん」を間近に見て感激した様子で、いっしょに歌ったり、曲に合わせて手拍子をとったりして楽しく過ごし、大変喜んでいました。



コンサートの様子



歌を歌うおさむおにいさん



アジア太平洋リーダーサミットに附属高等学校より3名の生徒を派遣

アジア太平洋リーダーサミットが、シンガポールにおいて7月18～27日の日程で開かれ、附属高等学校から2年生3名の生徒が派遣されました。このサミットは同国HWA CHONG JUNIOR COLLEGEが中心となり、同国政府、各団体協賛のもと企画



運営され、今年が2回目の開催となります。昨年は5名の生徒が派遣されましたが、今回は参加国が2カ国増え、オーストラリア、中国、インド、マレーシア、サウジアラビア、イギリス、シンガポール及び日本の8カ国となった関係から3名の派遣となったものです。日本からは同校の他、私立から麻布高等学校、公立から下関西高等学校の3校が参加し、これは昨年と同様です。今回は、8カ国から約80名の高校生が集まり、同COLLEGEの寄宿舎に同宿して若者の立場から政治や社会、環境などについて討論、論議することを中心に、他に同国の政府機関や教育研究機関のトップから講義を受ける機会が多く設けられました。言葉はすべて英語を通して行われました。各国とも高校生同士が一堂に会する機会はなく、最初はお互いにとまどいを感じていたようですが、それぞれが抱える国の課題や若者の関心事を述べ合ううちに理解が深まり、やがて高校生としての本音で語り合える間柄になってきました。このサミットに参加したことによって、世界の中でアジアが抱える問題や役割を強く認識でき、高校生が将来国際社会で果たすべき役割をと共に自覚できた2週間となりました。

情報科学類でICT合宿を実施  
- 附属坂戸高等学校 -

8月27～31日に情報科学類において、山口喜教情報科学類長、志築文太郎講師(システム情報工学研究科)、高橋伸講師(同)の指導による4泊5日の合宿が附属坂戸高等学校の1～3年次の生徒11人の参加により行われました。この合宿は、附属坂戸高等学校が指定を受けた平成17～19年度文部科学省「IT人材育成プロジェクト」研究



(スーパーITハイスクール)の一環として始められたものです。参加2年目の生徒は、WWWサービス構築入門として複数のWWW APIを組み合わせるマッシュアップの初歩的な内容を学習しました。1年目の生徒8名はCOINS計算機システムによるUNIX環境入門、JavaScriptによるプログラミング入門演習、XML & WWW入門の演習を行いました。また計算科学センターにおいて最新のスーパーコンピュータやその応用などについて、稲垣敏之教授(システム情報工学研究科)の研究室においてヒューマンシステムを、加藤和彦教授(同)の研究室においてサステナブル=持続可能なサービスを提供する基盤システムを、また、田中二郎システム情報工学研究科長の研究室で

閉校式にて  
前列左から3人目高橋講師、4人目山口情報科学類長、5人目志築講師と、附属坂戸高等学校生徒

合宿の様子(3C棟計算機室にて)

は大画面環境における手を使った情報操作インタフェース，過去の行動か服のコーディネートを紹介する鏡状アプライアンス，ライブカメラを使ったコミュニケーションサポートシステムを見学しました。

大学において演習ができたことにより，大学の雰囲気がかかるとともに，大学の先生から直接指導を受ける貴重な機会を得ることができ，情報科学類で学びたいと考える生徒もあり，今後の学習の動機付けになりました。

### 第3回IBSA世界選手権大会に参加 - 附属視覚特別支援学校 -

8月1～6日，ブラジルのサンパウロにおいて，第3回IBSA（国際視覚障害者スポーツ連盟）世界選手権大会が開催されました。附属視覚特別支援学校からは，陸上競技の選手として鈴木裕二君（鍼灸科1年）が，ゴールボールの選手として信澤用秀君（鍼灸科3年）が，また，陸上競技選手団コーチ（伴走兼任）として原田清生教諭が参加しました。



銅メダル獲得の堀越選手（左）と鈴木選手

ゴールボールは，残念ながら予選リーグ敗退でしたが，陸上競技では，鈴木君が4×400mリレーで銅メダルを獲得しました。その他，柔道で金メダル獲得の加藤裕治選手，陸上競技10,000mで銅メダル獲得の堀越信司選手など同校OBの活躍が目立ちました。

URL：[http://www.jsad.or.jp/event\\_info/2007/07IBSA\\_gaiyo.htm#results\\_ibsa](http://www.jsad.or.jp/event_info/2007/07IBSA_gaiyo.htm#results_ibsa)

### お知らせ

#### 全学停電時における計算機・ネットワークシステムの運用休止について

10月13日(土)及び14日(日)に実施される全学停電のため，次のとおり計算機・ネットワークシステムの運用を休止しますのでご協力願います。

筑波キャンパス（春日地区を除く。）基幹ネットワークシステム（アクセスポイント接続サービス，ワイヤレスメッシュネットワークシステムも含まれます。）

10月13日(土)，14日(日) 7:00～18:00

上記の時間帯に運用を停止する機器は，春日地区を除く筑波キャンパスに設置されているフロアスイッチ，アクセスポイント接続サービス用機器，ワイヤレスメッシュネットワークシステムです。それ以外の機器（コアスイッチ，コアルータ，ウィルス防御装置を含むネットワーク管理システム）については停止せずに運用します。詳細については学術情報メディアセンターのホームページを参照ください。

なお，宿舍の停電に伴い宿舍のワイヤレスメッシュネットワークも次の日時までサービスを停止します。

平砂・追越宿舍地区

10月11日(木) 9:00～17:00

一の矢宿舍地区

10月12日(金) 9:00～17:00

教育用計算機（icho）

10月13日(土)7:00～14日(日)18:00

上記期間，端末が利用できない他，メール，Web等，教育用計算機システムのすべてのサービスが停止します。

e-Learningシステム（WebCT）

10月13日(土)7:00～14日(日)18:00

クラスタ計算機（kaede，kaede-b）

10月12日(金)17:00～15日(月)9:00

12日17:00時点で実行中のJOBは，全て削除されます。

汎用サーバ（sakura）及び汎用レンタルサーバは，停電期間中も外部電源により通常どおり運用します。

文部科学省共済組合共済積立貯金及び団体積立終身保険の募集について - 財務部資金管理課 -

文部科学省共済積立貯金（10月期）の新規加入及び積立金額変更の募集及び同団体積立終身保険（10月期）の新規加入・復活及び積立金額変更の募集を次のとおり行います。詳細については、別途パンフレットを配布しますのでご覧ください。

< 共済積立貯金 >

加入資格：共済組合員

積立種類：定期積立 1,000円単位で給与から控除

臨時積立 1,000円単位で6月・12月の期末・勤勉手当から控除

臨時積立のみの申込はできません。

申込期間：10月1日(月)～25日(木)

申込手続：「貯金加入申込書」,「積立金変更申込書」に必要事項を記入し、捺印のうえ、各共済組合事務担当係に提出してください。

控除開始：12月給与

< 団体積立終身保険 >

加入資格：Aコース（個人年金保険料控除適用）

・退職まで積立期間が10年以上ある共済組合員

Bコース（生命保険料控除適用）

・退職まで積立期間が2年以上ある共済組合員

積立金額：月払掛金 1口2,000円で給与から控除（最低1口～最高500口）

半年払掛金 1口10,000円で6月・12月の期末・勤勉手当から控除

（最低1口～最高200口）

半年払のみの申込はできません。

申込期間：10月1日(月)～25日(木)

申込手続：「加入（変更・復活）申込書」に必要事項を記入し、捺印のうえ、各共済組合事務担当係に提出してください。

控除開始：半年払 平成19年12月期末・勤勉手当

月 払 平成20年1月給与

本件問合せ：各部署等の共済組合事務担当係又は財務部資金管理課共済組合係（TEL.2181（人事課福利厚生室内））

筑波大学技術報告第28号の原稿募集について

本学では、高度の専門性を有する技術職員の持つ技術を公開し、また、そうした技術職員を育成する方策の一つとして、技術職員が自己の職務について創意工夫と研究を重ねた結果を「筑波大学技術報告」として毎年刊行しています。

今年度も「筑波大学技術報告第28号」の原稿を募集しますので、多くの技術職員の方々の応募をお待ちしております。

なお、「筑波大学技術報告第28号の原稿募集要項」を関係研究科、関係センター及び支援室を通じて配布していますので、参照してください。

応募資格：本学技術職員（準研究員を除く。）

原稿作成要領：

図・表を含めA4版縦長2段組み、8ページ以内（カラー可。出来るだけ偶数ページ）とする。

技術発表会のホームページ上（<http://www.tech.tsukuba.ac.jp/2007/>）にあるテンプレートを使用するか、そこに指示のあるフォーマットにしたがって作成する。

今年度から、報告書に英文の「タイトル、著者名、所属、概要、キーワード」を追記するが、英文原稿の作成については、自筆希望の場合を除き技術発表会実行委員会が責任を持って行う。

締 切：平成19年12月14日(金)

提 出 先：研究事業部研究事業課総務係宛て、原稿のWordファイル及び印字した紙媒体を提出する。

問 合 せ：研究事業部研究事業課総務係

（TEL.2924 E-mail：kenkyo@sec.tsukuba.ac.jp）



## 「研究助成情報」サイトの活用について

- 研究事業部研究事業課 -

研究事業部では、かねてより

- 1 公益法人・民間等からの研究助成金情報
- 2 各共同利用機関からの共同研究募集情報
- 3 各省庁からの補助金・委託費等公募情報
- 4 各種授賞関係情報

等に係る有益な外部資金情報等を「研究助成情報」サイトで公開しています。

平成20年度の科学研究費補助金に関する最新の情報も既に掲載していますので、当該サイトを有効にご活用ください。

なお、「研究助成情報」サイトのアドレスは次のとおり。

URL : <http://kjyo.sec.tsukuba.ac.jp/kenkyu/>

(本学公式ホームページの「研究・産学連携」のページ、「研究助成関連情報」コーナーの「研究助成情報」からも接続できます。)

## 附属図書館臨時休館のお知らせ

附属図書館は、停電のため、中央、体育・芸術、医学の各図書館において、次のとおり、臨時休館します。これに伴い、10月12日(金)は貸出終了時間が早くなりますのでご注意ください。

また、10月12日(金)19:00～15日(月)9:00の間、図書館のホームページにアクセスができなくなり、蔵書検索システム(予約・更新を含む。)、マイライブラリ、電子ジャーナル等、全てが使用できません。

利用者の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

図書館	10月12日(金)	13日(土)	14日(日)
中央・体芸・医学	貸出終了：19:00 閉館：22:00	休館	休館
図情・大塚図書館	通常どおり	通常どおり	通常どおり

## 献血に協力を！ - 医学群長 -

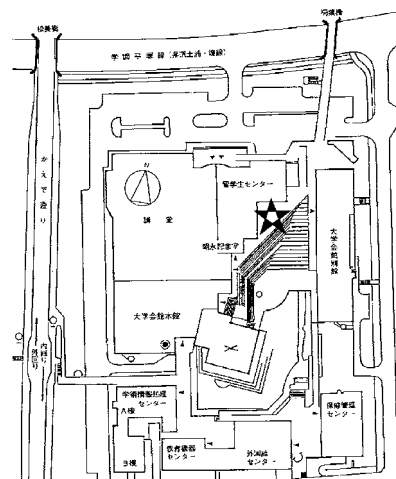
茨城県は全国でも最も輸血用血液の自給率が低い都道府県の一つであり、他の都道府県から回してもらっている現状です。そこで、日本赤十字社の協力要請を受けて献血車を筑波大学内に配車していただき、学生・教職員の皆さまに協力をお願いしています。

今年度は3回を予定しており、今回はその第2回目で11月7日(第3回目は1月30日(水)の予定)です。なお、今回は骨髄バンクへの登録も同時に行うことができます。一人でも多くの方の協力をお願いいたします。

日時：11月7日(水) 9:30～13:00

14:00～16:00

場所：留学生センター前広場(右図★印)



## あなたのライフスタイルを見直してみませんか？

- 体育センター -

体育センターでは、教職員を対象とした「体力測定」を次の通り実施いたします。同僚の方などお誘い合わせのうえ、奮ってご参加ください。

日 時： 体力測定 10月25日(木) 17:30～18:30

26日(金) 17:30～18:30

トレーニング指導 27日(土) 10:00～12:00

場 所：体育総合実験棟(SPEC)

- 内 容：
- 1 体脂肪率の測定(着衣のまま測定します。)
  - 2 筋力、持久力、柔軟性などの測定(総合的な体力の診断)
  - 3 Biodex(等速性筋力測定機)による膝屈伸力、腹背筋力の測定
  - 4 以上の結果と、あなたの年齢、生活状況などを考慮して、体育科学系教員がカウンセリングを行います。詳しくは当日担当教員にご相談

ください。

所要時間は、約1時間です。

当日は、上履きを持参のうえ運動できる服装でお越しく下さい。

申込方法：希望する日の2日前までに、体育センター準研究員室（TEL.2874）に電話で申込をしてください。

筑波大学共催IAP2008が日本学術振興会の国際会議開催助成に採択される

筑波大学共催で、来年の6月1～4日に京都で開催される第5回「環境汚染におけるコロイド界面現象と界面科学の取り組み」The 5th International Conference INTERFACES AGAINST POLLUTION 2008 に対し、日本学術振興会から国際会議開催助成の採択が通知されました。

この会議は、土・水・大気など環境を扱う重要な基礎科学にコロイド界面科学があり、今後の展開の方向性を明らかにすることを目的に行われます。

特定の学会に偏らない中立的な学際的運営を目指しており、本学にはIAP2008の国内委員会事務局が置かれています。詳細は次のホームページをご覧ください。

URL：http://www.rs.noda.tus.ac.jp/iap2008/

URL：http://www.envr.tsukuba.ac.jp/~colloid/IAP2008.html

なお、この会議に対してはクリタ・水環境財団からも開催助成が内定しました。

会議への参加申し込み、質問等は次へお願いいたします。

IAP国内委員会事務局 生命環境科学研究科 持続環境学専攻（農林工学系）

足立泰久（E-mail：iap2008@envr.tsukuba.ac.jp）

平成19年度第2回化学類・自然科学類化学セミナーの開催について

化学類・自然科学類では、次のとおりセミナーを開催します。最先端の化学について分かり易く解説されますので、一般の方のご来聴を歓迎します。

日 時：10月16日(火) 6時限（16:45～18:00）

場 所：1H棟201

演 題：天然物の全合成研究

講 師：福山透教授（東京大学大学院薬学系研究科）

担 当：世話人 数理物質科学研究科化学専攻 市川淳士教授（TEL.4237）

連絡先 同 守橋健二教授（TEL.4485）、末木啓介准教授（TEL.2512）

第47回知的コミュニティ基盤研究センター研究談話会の開催について

知的コミュニティ基盤研究センターでは、本センターの研究領域に関する分野における最新の研究成果や話題について研究談話会を開催しております。

事前の申し込みは必要ありませんので、どなたでも自由にご参加ください。

なお、最新情報は知的コミュニティ基盤研究センターのホームページをご覧ください。（URL：http://www.kc.tsukuba.ac.jp/）

日 時：10月19日(金) 13:30～14:30（質疑込み1時間）

場 所：春日キャンパス 情報メディアユニオン3階 共同研究会議室I

講 演 者：Pittsburgh大学School of Information Sciences准教授

Ellen Detlefsen博士

タイトル：Medical Informatics in Context（コンテキストによる医療情報学）

概 要：Medical informatics can be defined as "the application of information science and information technology to the theoretical and practical problems of biomedical research, clinical practice, and medical education." An increasing numbers of knowledge workers are involved in medical informatics-related programs and activities. This talk will provide an overview of the field of medical informatics and show how it "fits in" with other information fields.

（講演は英語で行います。）

問 合 せ：知的コミュニティ基盤研究センター（TEL.8-1524）

（E-mail：kc-office@slis.tsukuba.ac.jp）



第50回 リスク工学研究会  
(RERM)の開催について

リスク工学専攻では、定期的にはリスク工学研究会を開催しています。参加は自由ですので、教員、学生を問わず、専攻外の方でも、興味をお持ちの方は奮ってご参加ください。事前申し込みは必要ありません。

日 時：11月6日(火) 18:00～20:00

場 所：総合研究棟B 0110公開講義室(1F)

## 講演1

講演題目：太陽光発電システムの現地調査と故障・不具合

- PVResQ! 活動の事例から -

講演者：加藤和彦氏

((独)産業技術総合研究所 太陽光発電研究センター 主任研究員)

講演概要：太陽光発電システム(PVシステム)は、地球温暖化問題への有効な対策の一つとして研究開発と普及支援策とが平行して進められている。一方、このPVシステムは屋外の過酷な環境下で長期間にわたる安定運用を期待されているにも関わらず、発電機能の中心である太陽電池モジュールは多くの場合設置者の視野外にあり、かつその出力は日射条件や周辺環境に左右されるため、実性能や故障・不具合の把握が困難であるばかりでなく、その使用に際して設置者の意思が反映されないという他の一般家電製品とは異なる稀有な特徴を有する。したがって、実際のPVシステムの故障や不具合に関する調査・検討は十分に進んでいない。そこで、本講では我々が進めているPVシステムの現地調査活動である‘PVResQ!’について紹介するとともに、PVシステムの普及に隠れた諸問題について言及する。

## 講演2

講演題目：広域地震ハザード・リスクの予測と把握と統合

講演者：松岡昌志氏(産業技術総合研究所 グリッド研究センター)

講演概要：日本全国を統一化した工学的地形分類基準に従って構築した「日本の地形・地盤デジタルマップ」の応用例として、広域震度分布や被害分布の予測手法について紹介する。また、人工衛星リモートセンシングによる被害把握手法とその可視化を紹介し、さらに、これらの予測手法と把握手法を統合した高精度な被害推定手法を提案する。

担 当：リスク工学専攻 岡島敬一、村尾修

問 合 せ：リスク工学専攻 RERM担当 伊藤誠

(TEL.5502, E-mail: itoh@risk.tsukuba.ac.jp)

U R L: <http://www.risk.tsukuba.ac.jp/rerm/index.html>

「沖釣り」をテーマにルアー等による釣り教室の開催について  
- 職員釣りクラブ -

職員釣りクラブでは、テーマに合わせ釣り教室を行っております。

今回は「沖釣り」をテーマにルアー等による釣り教室を開催いたします。次の日程で開催しますので、大海原で心身ともにリフレッシュしてはいかがでしょうか。

日 時：11月3日(土) 12:30集合

荒天時は10日に順延

集合場所：茨城県神栖市波崎8739 波崎港シラス荷揚げ場

船 宿：波崎信栄丸

(<http://www.choshinet.or.jp/~shine/>)

対 象 魚：イナダ、ワラサ、カンパチ、ヒラマサ、サバ等

定 員：20名(先着順)

そ の 他：乗船料 9,000円(レンタル釣具別途1,000円)

釣具の詳細についてはご相談ください。(ルアー等はお貸しします。)

問 合 せ：小山 数理物質科学等支援室(E-mail: hioyama@sec.tsukuba.ac.jp)

久米 財務部契約課(E-mail: hkume@sec.tsukuba.ac.jp)

職員釣りクラブでは、各種釣りに関するご相談もお受けしております。お気軽に上記「問合せ」にご相談ください。

## 各種表彰等

谷川彰英理事・副学長がWho's Who in the Worldに掲載される



谷川彰英理事・副学長は、Marquis版 Who's Who in the World (25<sup>th</sup> Silver Anniversary Edition)に掲載されることになりました。この人名録は、世界的に権威のあるもので、今回の特別記念版では、様々な分野において世界的に優れた業績を残した50,000名以上の人物が掲載される予定です。

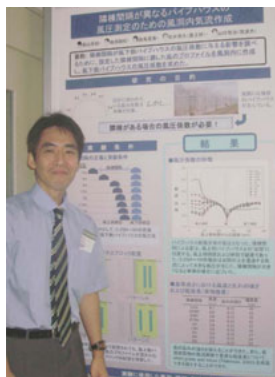
渡辺守教授が平成19年度成茂動物科学振興基金助成を獲得

渡辺守教授(生命環境科学研究科, 持続環境学専攻)は, 研究課題「地球環境温暖化が海洋性ウミアメンボの生活史に与える影響」に関して, 平成19年度成茂動物科学振興基金助成を獲得しました。

成茂動物科学振興基金は, 毎年, 動物科学振興のために尽くす「すばらしい研究課題と業績をもった研究者(基金運営委員会より)」に研究助成を行っています。

山口智治教授指導の生命環境科学研究科3年森山英樹氏, 山口教授らが農業環境工学関連学会2007年合同大会ベストポスター賞を受賞

山口智治教授(生命環境科学研究科, 生命産業科学専攻)指導の生命環境科学研究科3年森山英樹氏(生命産業科学専攻, 生物施設工学研究室), (独)農研機構農村工



ポスター発表作品と森山氏

学研究所佐瀬勘紀農業施設工学研究チーム長, 同奥島里美上席研究員, 同石井雅久主任研究員及び山口教授の5氏は, 農業環境工学関連学会(農業施設学会, 農業機械学会, 農業情報学会, 生態工学会及び日本農業気象学会)2007年合同大会において, 「隣棟間隔が異なるパイプハウスの風圧測定のための風洞内気流作成」の課題発表によりベストポスター賞を受賞しました。

この賞は同大会のポスター発表において最も優れた研究発表と認められたもので, 日本農業環境工学系学会連盟代表幹事より表彰状が授与されました。

## 「速報つくば」について

「速報つくば」の次回(通巻1156号)の発行日は10月17日(水)です。原稿の提出は10月10日(水)の午前中までをお願いします。

学内行事, イベント情報及び職員サークル活動などの記事も募集しています。

なお, 「速報つくば」への寄稿に際しては, 次の事項に留意ください。

できるだけ電子メールや電子メールへの添付ファイル等にしてください。

表彰関係記載項目については, 受賞者氏名, 所属, 受賞名, 簡単な賞の説明, 受賞対象論文名等(掲載誌のページ等は省略願います。)とし, 授賞式の日時, 場所等については, 必要がある場合等を除き, 省略願います。

シンポジウム等の開催案内でシンポジウム等の概要を記す場合は, なるべく400字以内としてください。

簡潔に記載してください。

採用の原稿は, Web上に掲載しますので, 了承願います。また, 文教速報(官庁通信社発行), 文教ニュース(文教ニュース社発行)及びSTUDENTS(学生部発行)等からの情報提供依頼があった場合は, 掲載情報(写真等を含む。)を提供しますので承知願います。

「速報つくば」のPDF版は, 次のURLで閲覧できます。

<http://www.tsukuba.ac.jp/public/booklets/bulletin/index.html>

学内ニュース, 写真の提供及び掲載内容への意見は広報課(TEL.2801, FAX.2014)へお願いします。

E-mail: [sokuho@sakura.cc.tsukuba.ac.jp](mailto:sokuho@sakura.cc.tsukuba.ac.jp)

電子メールで寄稿された方には, 原稿受付等の返信メールを送りますので, ご確認ください。なお, 返信メールが届かない場合は, 広報課までご連絡をお願いします。